

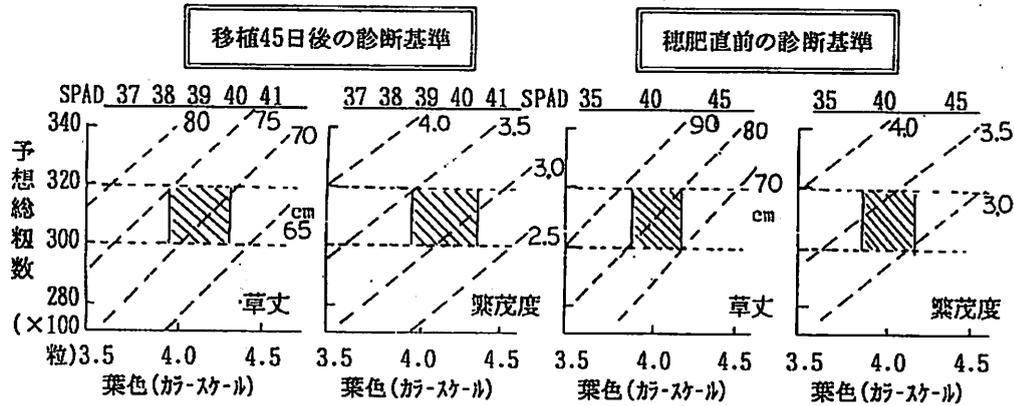
農産	5	稲	栽培
新技術・情報名		分類	②

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

ヒノヒカリの6月中旬移植(麦後)を前提として、葉色を中心に草丈あるいは繁茂度から粒数を予測する簡易な生育診断法を明らかにした。

- ① 診断時期：移植45日後(8月1日頃)あるいは穂肥直前(8月10~12日頃)
- ② 診断形質：葉色(カラスケール、あるいはSPAD501)及び草丈(あるいは繁茂度)
- ③ 診断基準：最適粒数 3万~3万2千粒を確保するための診断基準を下記の模式図に示した。



この基準は、圃場の地力や移植後の気温の高低等により補正が必要である。

2) 技術・情報の適用効果

繁茂度、草丈を診断項目に加えることにより、診断精度が向上した。このことによりヒノヒカリの最適粒数が確保され品質向上及び作柄の安定化に寄与できる。

3) 適用範囲

九州北部地域のヒノヒカリ作付地域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

葉色が最も重要な診断形質となるので、葉色(カラスケールの正しい見方を参照)は正確にみる必要がある。

2. 具体的データ

表1 試験年次別の生育前期の気象，土壌窒素無機化量と水稻の生育・収量

年次	6月中旬～7月末		移植45日後までの		m ² 当たり		10a当たり		備考
	日照時間	平均気温	土壌窒素無機化量	総粒数(×100粒)	玄米重	総粒数(×100粒)	玄米重		
63年	137hr	24.4℃	4.07kg (6.10)	311 (366)	602kg (606)			()内は地力増強	
元	180	23.7	3.83 (5.74)	245 (338)	486 (584)			田の値。	
2	328	26.5	5.80 (7.18)	296 (336)	574 (547)				
3	80	24.8	4.85 (5.98)	311 (313)	489 (458)				

表2 m²当たり総粒数予測のための診断形質とその相関(昭63～3年の4か年)

n	単相関係数				重相関係数	
	移植後45日	稔肥直前		X ₁ , X ₂	X ₁ , X ₃	
54	草丈(X ₁)	基数(X ₂)	葉色(X ₃)	葉色(X ₄)	X ₁ , X ₂	X ₁ , X ₃
	0.451	-0.126	0.586	0.752	0.002	0.663

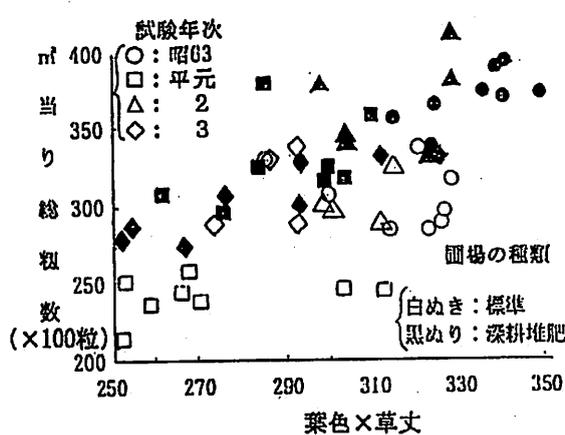


図1 8月1日(田植後45日後)の水稻の生育とm²当たり総粒数との関係

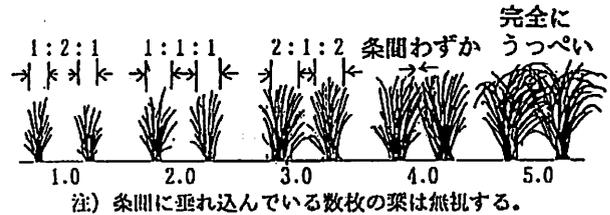


図2 繁茂度の観察基準(条間の隙間の程度を調査)

表3 m²当たり総粒数予測のための診断形質とその相関(2～3年の2か年)

n	移植45日後		稔肥直前	
	葉色	葉色×繁茂度	葉色	葉色×繁茂度
22	0.482	0.688	0.611	0.706

3. その他特記事項

担当部科室名：農産研究所 栽培部 作物栽培研究室

研究担当者名：大隈光善・田中浩平・真鍋尚義

研究課題名：稲・麦の新品種導入に関する栽培法

—ヒノヒカリの品質向上のための生育診断法—

期 間：昭和63～平成3年 予算区分：経常

既発表論文・資料名等：平成3年度夏作試験成績概要書

取りまとめ責任者名：大隈光善